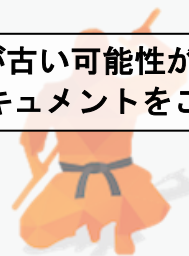




このコンテンツは公開から3年以上経過しており内容が古い可能性があります
最新情報については[サービス別資料](#)もしくはサービスのドキュメントをご確認ください



Black Belt
Online Seminar

【AWS Black Belt Online Seminar】 AWS Service Catalog

Archived

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
ソリューションアーキテクト 能仁 信亮

2018.07.18

自己紹介

能仁 信亮(のうにん しんりょう)

エンタープライズ ソリューション部

ソリューション アーキテクト

普段の業務

主に金融機関のお客様のクラウドへのマイグレーション支援

好きなAWSサービス

- Amazon S3、AWS Service Catalog



AWS Black Belt Online Seminarとは

AWSJのTechメンバがAWSに関する様々な事を紹介するオンラインセミナーです

【火曜 12:00～13:00】

主にAWSのソリューションや業界カッタでの使いどころなどを紹介(例：IoT、金融業界向け etc.)

【水曜 18:00～19:00】

主にAWSサービスの紹介やアップデートの解説(例：EC2、RDS、Lambda etc.)

※開催曜日と時間帯は変更となる場合がございます。最新の情報は下記をご確認下さい。

オンラインセミナーのスケジュール&申し込みサイト <https://aws.amazon.com/jp/about-aws/events/webinars/>

内容についての注意点

- 本資料では2018年7月18日時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報はAWS公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格とAWS公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様が東京リージョンを使用する場合、別途消費税をご請求させていただきます。
- AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at <http://aws.amazon.com/agreement/>. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

インフラのプロビジョニングに関する典型的な課題

① プロビジョニングの
自動化

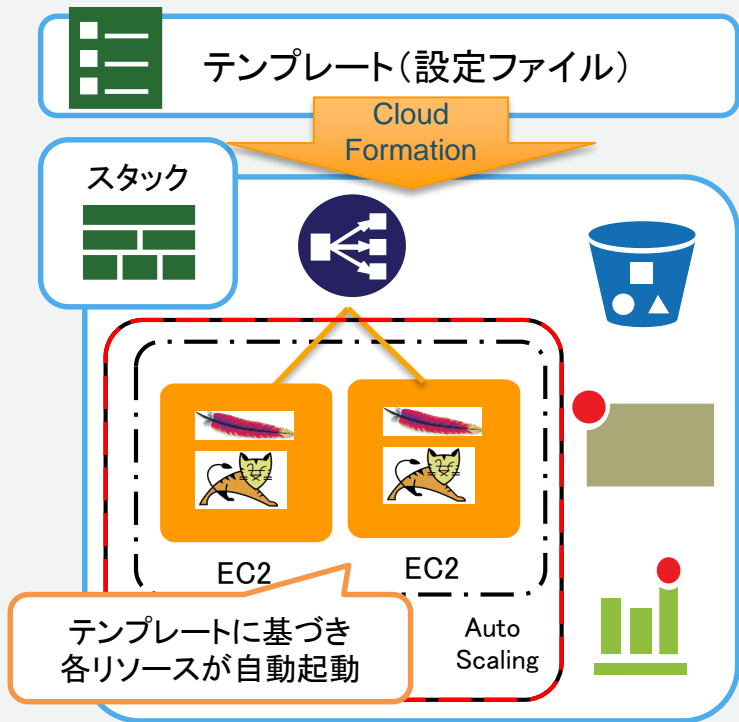
=

Infrastructure as Code

AWS CloudFormation



設定管理 & クラウドのオーケストレーション サービス



- テンプレートを元に、EC2やELBといったAWSリソースの環境構築を自動
- YAMLやJSONで、テンプレートを自由に記述可能
- Microsoft Windows Server や SAP HANA などのクイックスタートリファレンスを用意

インフラのプロビジョニングに関する典型的な課題

① プロビジョニングの
自動化

=

Infrastructure as Code

② 統制を取りつつ
各チーム/プロジェクトが
セルフサービスで
プロビジョニングできる
仕組み作り

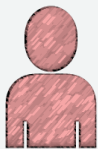
アジリティとガバナンスの両立



社内ユーザ
(開発者)

スピードが重要！ 必要な権限が欲しい

業務チームや開発チームは、ビジネス機会を逃さないように可能な限り速く動きたい。そのためにはセルフサービスで環境を準備できるようにしたい



コンプライアンス
/システム管理
担当

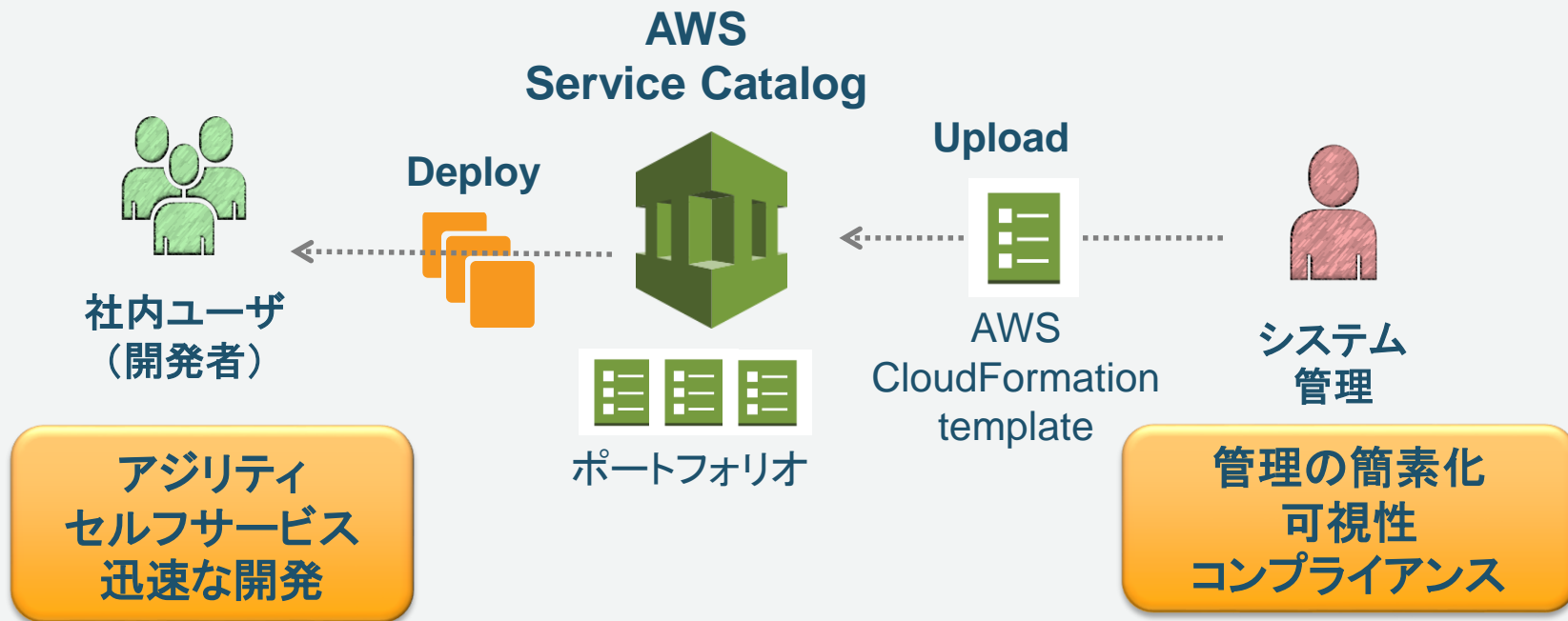
そんなに急がないで... ルールがあるから

組織全体としては、セキュリティやコンプライアンスを担保してリスクを最小化する必要がある

AWS Service Catalog



組織内サービスポータル提供サービス



AWS Service Catalog を利用する利点

分散したITサービスのライフサイクルを全体として最適化する

AWSのプロビジョニングに関するリスクを低減する (コスト、セキュリティ、ガバナンス)

セルフ サービス チーム ポータル

標準的なAWS環境のデプロイをテンプレート化する

テンプレートのバージョン管理を行う

プロアクティブにガバナンスやコンプライアンスを遵守させる

API経由でITSMツールと連携する

AWS Marketplace と連携する (製品のコピー)



Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

AWS Service Catalogの用語



製品



制約



ポートフォリオ



プロビジョニング
された製品

製品

- CloudFormationテンプレートをパッケージ化したもの
- EC2やストレージ、データベースなどの1つ以上のAWSリソースからなる
- バージョンが管理可能

ポートフォリオ

- 製品の集合
- ポートフォリオの単位でユーザーに製品の使用を許可
- 製品の使用方法(次ページの制約を参照)の管理も可能
- ポートフォリオを他のAWSアカウントに共有することも可能

制約

- 製品のデプロイ方法を制御。ポートフォリオごとに各製品に制約を追加
- テンプレート制約
製品を起動する際に、ユーザーが使用できるパラメータ(EC2インスタンスタイプなど)を制限
- 起動制約
起動時にリソースをプロビジョニングするのに利用するロール。
起動制約を利用することで、ユーザーの権限を最小にたもったまま、製品の起動が可能となる
- 通知制約
Amazon SNS トピックを使用してスタックのイベントに関する通知を受けることが可能となる

プロビジョニングされた製品

- AWS Service Catalogから起動された製品のインスタンス

管理者とエンドユーザーのコンソールビュー

管理者用コンソール

ポートフォリオや製品などの登録・管理

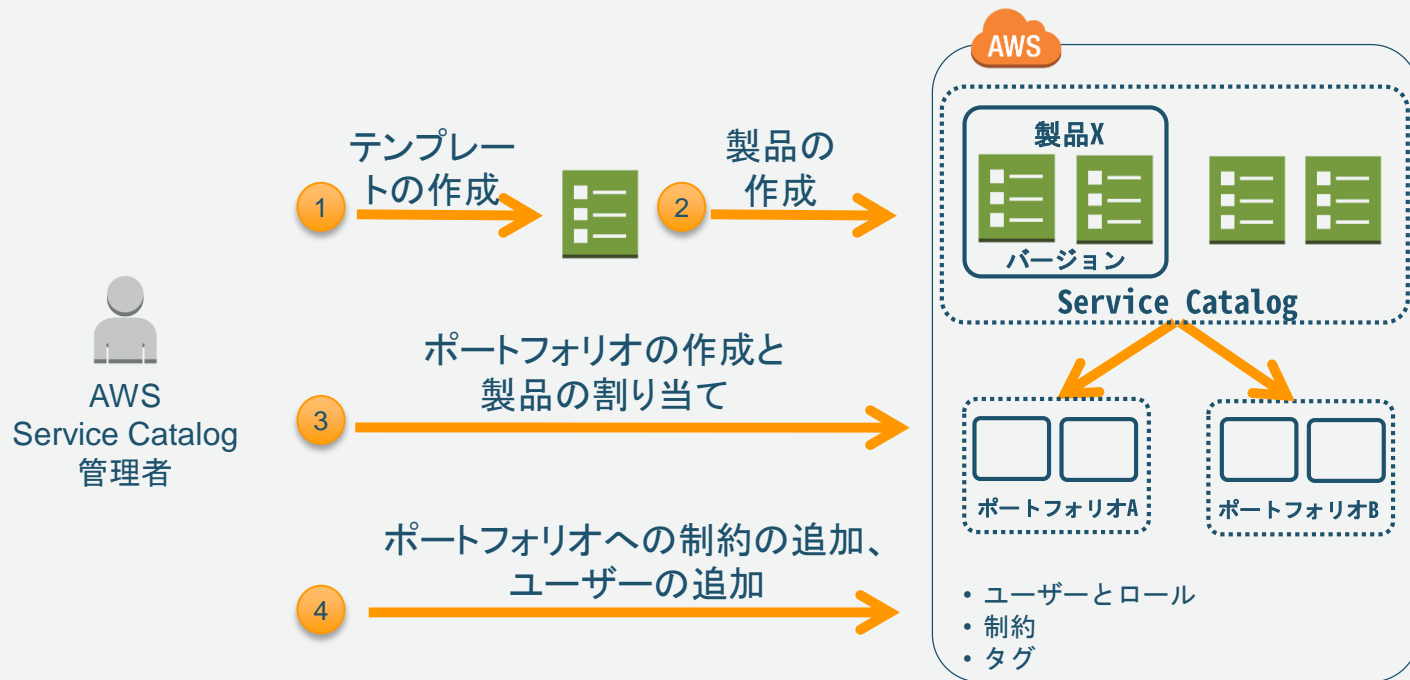
The screenshot shows the AWS Service Catalog console interface for administrators. The left sidebar contains navigation options: 製品リスト (Products), プロビジョニングされた製品のリスト (List of provisioned products), 管理者 (Admin), 製品リスト (Products), ポートフォリオリスト (Portfolio List), TagOption ライブラリ (TagOption Library), 設定 (Settings), and Marketplace ソフトウェア (Marketplace Software). The main content area is titled 'ポートフォリオリスト' (Portfolio List) and shows a 'ポートフォリオ' (Portfolio) section with a source selector set to 'ローカルポートフォリオ' (Local Portfolio). Below this, there are options for 'ローカルポートフォリオ' (Local Portfolio) and a table with a search filter and a list of portfolios, including one for '開発環境用ポートフォリオ' (Development Environment Portfolio) created on Jul 12th 2018.

エンドユーザー用コンソール

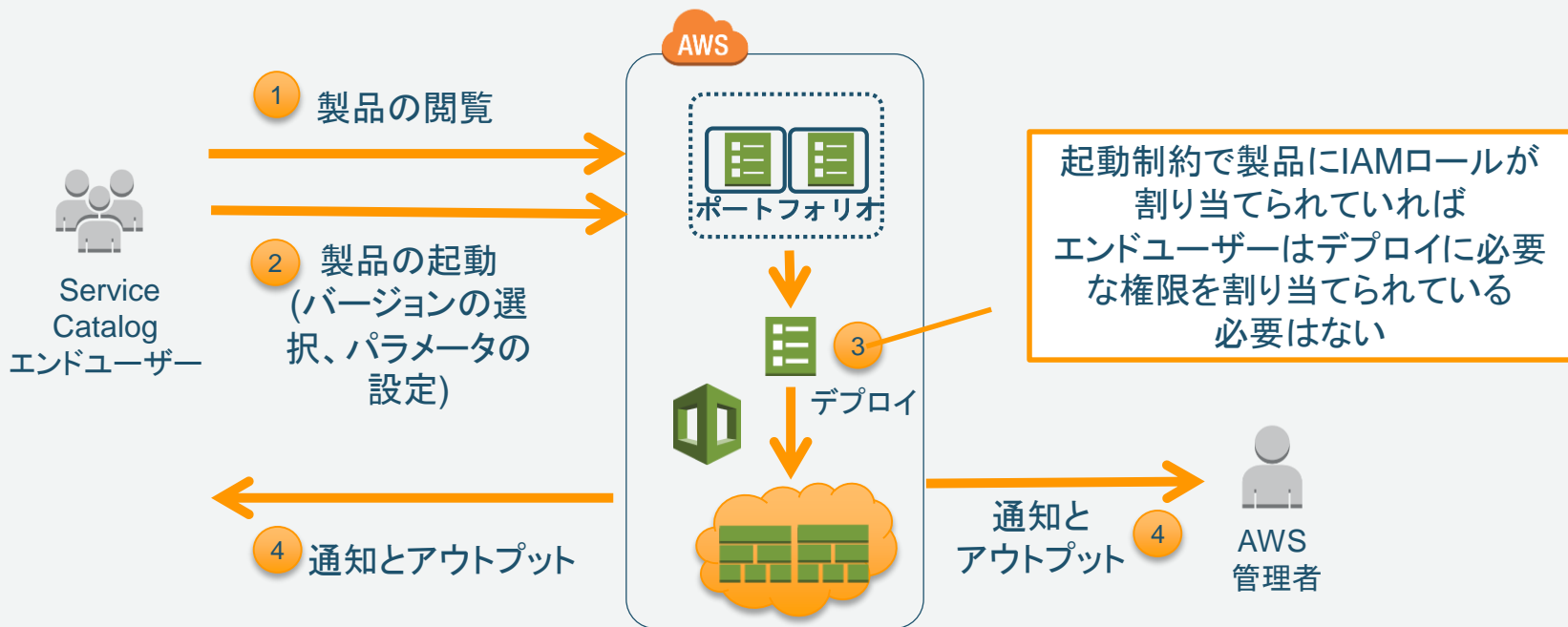
製品の閲覧・検索・起動

The screenshot shows the AWS Service Catalog console interface for end users. The left sidebar is identical to the administrator view. The main content area is titled 'プロビジョニングされた製品のリスト - プロビジョニン' (List of provisioned products - Provisioning) and displays a 'Web2' product. The product details include a blue 'Internal App' icon, a status of '利用可能' (Available), a product name of '標準Webシステム' (Standard Web System), a version of 'v1.0', and a provider of 'ITインフラ統括部' (IT Infrastructure Management Department). Below the product details, there is a section for 'イベント (1)' (Events (1)) showing a successful provisioning event on Jul 12th 2018 at 12:07:40 UTC+0900, with a Record ID and a Provisioning ID.

管理の流れ



エンドユーザーの操作の流れ



Service CatalogのIAM 管理ポリシー

- **管理者用**
 - **AWSServiceCatalogAdminFullAccess**
管理コンソールビューへのフルアクセス権と、製品とポートフォリオの作成および管理の権限を付与します。
 - **ServiceCatalogAdminReadOnlyAccess**
管理者コンソールビューへのフルアクセス権を付与します。製品とポートフォリオを作成または管理するためのアクセス権は付与しません。
- **エンドユーザー用**
 - **AWSServiceCatalogEndUserFullAccess**
エンドユーザーコンソールビューへのフルアクセス権を付与します。製品を起動し、プロビジョニング済み製品を管理するアクセス権を付与します。
 - **ServiceCatalogEndUserAccess**
エンドユーザーコンソールビューへの読み取り専用アクセス権を付与します。製品を起動し、プロビジョニング済み製品を管理するアクセス権は付与しません。

Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

設定の流れ

ポートフォリオ
の作成

製品の追加

制約の追加

ポートフォリオ
へのアクセス
権の追加

設定の流れ: ポートフォリオの作成



ポートフォリオの作成

製品を整理してエンドユーザーに配信するには、ポートフォリオを使用します。ポートフォリオに製品を追加し、アクセス権限を付与して、ユーザーが製品を表示および起動できるようにします。

ポートフォリオ名* 開発環境用ポートフォリオ

わかりやすい ID (最大 100 文字) を入力します。

説明 開発環境で利用できる製品群

ポートフォリオの詳細ページに表示される情報を追加します。

所有者* ITインフラ統括部

ポートフォリオの作成者を示します (最大 50 文字)。

*必須

キャンセル 作成

設定の流れ: 製品の追加



ポートフォリオ: 開発環境用ポートフォリオ

説明 開発環境で利用できる製品群

所有者 ITインフラ統括部

ポートフォリオ ID [REDACTED]

ポートフォリオ ARN [REDACTED]

製品

i このポートフォリオに製品はありません

独自の製品を追加するか、AWS Marketplace から製品を選択できます。新しい製品を作成する必要がある場合は、プロセスを完了するために CloudFormation のテンプレートが必要です。

新しい製品のアップロード 製品の追加



名前でフィルター

製品が見つかりません。

製品名

作成時刻

ベンダー

提供元

この例では、新規に CloudFormation テンプレートをアップロードし、製品としてポートフォリオに追加します

設定の流れ: 製品の追加



手順 1: 製品の詳細の入力

手順 2: サポート詳細の入力

手順 3: バージョンの詳細の入力

手順 4: 確認

製品の詳細の入力

組織内のプライベートな使用のために独自の製品を作成できます。作成した製品は、ポートフォリオに追加してエンドユーザーが使用するようにできます。

製品名* 標準Webシステム
例: My Test Product, My Packaged LOB App

説明* 標準的な3層アプリケーションの開発環境

提供元* ITインフラ統括部
製品を公開するユーザーまたは組織を示します。

ベンダー この製品に、公開元とは違うソースがある場合、このフィールドを設定できます。
製品を作成した会社を追加します。

製品に関連する情報を入力します。ここで入力した内容は、エンドユーザーがみる製品詳細ページに表示されます

手順 1: 製品の詳細の入力

手順 2: サポート詳細の入力

手順 3: バージョンの詳細の入力

手順 4: 確認

サポート詳細の入力

この情報により、このアプリケーションを公開する組織が識別されます

連絡先 E メール support@example.com
例: support@mycompany.com

サポートリンク https://dev-support.exempl
サポート詳細のためにアプリケーションユーザーに提供されるリンク。

サポートの説明 本製品の不明点に関してはサポートリンク先のFAQをご覧ください

キャンセル 戻る 次へ

設定の流れ: 製品の追加



手順 1: 製品の詳細の入力
手順 2: サポート詳細の入力
手順 3: バージョンの詳細の入力
手順 4: 確認

バージョンの詳細

テンプレートの選択

- テンプレートファイルをアップロード
ファイルを選択
- Amazon CloudFormation のテンプレートで、URL の場所を選択します

バージョンタイトル*

説明
この説明では、このバージョンと以前のバージョンとの違いを明確に示す必要があります。

*必須 キャンセル 戻る 次へ

製品で利用する
CloudFormationテンプレート
をアップロードします

設定の流れ: テンプレート制約の追加



製品とタイプの選択

制約タイプ

起動 AWS リソースのプロビジョニングに使用される製品に IAM ロールを割り当てることができます。

通知 Amazon SNS トピックに製品の通知をストリーミングできます。

テンプレート エンドユーザーが製品を起動するときに使用可能なオプションを制限することができます。

製品 **標準Webシステム**

制約タイプ **テンプレート**

キャンセル 続行

テンプレート制約ビルダー

AWS CloudFormation のテンプレートに定義されたパラメータの使用可能な値を絞り込むことにより、エンドユーザーが製品を起動するときに使用できるオプションを制限できます。

説明*
この説明では、適用中の制約の概要を示します。

ルールビルダー 制約テキストエディター

テンプレートの制約*

```
{
  "Rules": {
    "Rule1": {
      "Assertions": [
        {
          "Assert": {"Fn::Contains": [{"t2.micro"}, {"t2.small"}]},
          "InstanceType": {"Ref": "InstanceType"}
        }
      ]
    }
  }
}
```

サンプルの制約
サンプル 1
サンプル 2
サンプル 3

*必須

キャンセル 送信

テンプレート制約を定義します。
この例では、選択可能なインスタンスタイプを制限しています

テンプレート制約の例

```
{
  "Rules": {
    "Rule1": {
      "Assertions": [
        {
          "Assert": {
            "Fn::Contains": [ ["t2.micro", "t2.small"], {"Ref": "InstanceType"} ]
          },
          "AssertDescription": "Instance type should be t2.micro or t2.small"
        }
      ]
    }
  }
}
```

Fn::Contains関数を利用して、“InstanceType”パラメータは、“t2.micro”か“t2.small”でなければならないと制限をかけている

テンプレート制約ビルダー

この説明では、適用中の制約の概要を示します。

ルールビルダー 制約テキストエディター

名前	ルールの説明
名前*	Rule1
ルールの説明	Instance type should be t2.micro or t2.small
制約事項*	インタラクティブエデ... パラメータ InstanceType パラメータタイプ String パラメータの説明 EC2 instance type. <input checked="" type="radio"/> 値のリストに含まれている必要があります <input type="radio"/> 値に等しい必要があります 値 t2.micro,t2small

*必須 キャンセル 送信 フィールドのクリア ルールを追加する

シンプルなルールであれば、JSONを書かなくても、ルールビルダーを利用して、簡単にルール設定が可能

より複雑なテンプレート制約の例

```
"Rules" : {  
  "testInstanceType" : {  
    "RuleCondition" : {"Fn::Equals":[{"Ref":"Environment"}, "test"]},  
    "Assertions" : [  
      {  
        "Assert" : { "Fn::Contains" : [ ["m1.small"], {"Ref" :  
"InstanceType"} ] },  
        "AssertDescription" : "For the test environment, the instance type must  
be m1.small"  
      }  
    ]  
  }  
}
```

RuleConditionを利用すると特定の条件に合致する場合のみルールを適用することが可能

テンプレート制約のルールの構文や利用可能なルール関数はドキュメントを参照ください

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/servicecatalog/latest/adminguide/catalogs_constraints_template-constraints.html

設定の流れ: 起動制約の追加



製品とタイプの選択

i 制約タイプ

起動AWS リソースのプロビジョニングに使用される製品に IAM ロールを割り当てることができます。

通知Amazon SNS トピックに製品の通知をストリーミングできます。

テンプレートエンドユーザーが製品を起動するときに使用可能なオプションを制限することができます。

製品 **標準Webシステム** ▼

制約タイプ **起動** ▼

キャンセル 続行

起動の制約

起動時にリソースをプロビジョニングするために使用される IAM ロールを割り当て、ユーザーがカタログから製品をプロビジョニングします。

IAM ロール **Dev_WebAP_Role** ▼

ロールの ARN を入力します

説明 **開発環境用Webアプリケーション用のロールを利用して起動** x

この説明では、適用中の制約の概要を示します。

製品の起動時に、ここで指定したIAMロールを利用して製品を起動します。

設定の流れ: ポートフォリオの作成



開発環境用ポートフォリオ用にユーザー、グループ、およびロールを追加

アカウントで、ポートフォリオにアクセスし、そのアプリケーションを表示および起動できるユーザーを選択します。

グループ ユーザー **ロール**

グループ、ユーザー および ロール を選択済み

ポートフォリオにアクセスさせたい
グループ、ユーザー、ロールを
追加します

名前

2 個の ユーザー を表示中

ロール

ARN



キャンセル **アクセス権の追加**

ユーザーによるポータルへのアクセス: 製品リスト

☰ 製品リスト 古い外観に戻す

サーチ 並べ替え

例:名前 製品名 ▼ 🔄 ☰ 🗪

製品名	ベンダー	所有者	説明
☰ 標準Webシステム		ITインフラ統括部	標準的な3層アプリケーションの開発環境

ユーザーによるポータルへのアクセス: 製品詳細

The screenshot shows a product detail page for '標準Webシステム' (Standard Web System). The page includes a header with a menu icon, the product name, and a '古い外観に戻す' (Return to old appearance) link. The main content area features a product icon, a description, and a list of metadata including owner, distributor, contact email, support link, and support instructions. Below this is a '製品の起動' (Start Product) button, followed by a 'バージョン (1)' (Version 1) section with a search filter and a table of versions. The table lists version 'v1.0' with a creation time of 'Jul 12th 2018 10:18:39 UTC...' and a description of '初期リリース' (Initial Release). A '起動オプション (1)' (Start Options 1) section is also visible.

製品リスト - 製品の詳細 古い外観に戻す

標準Webシステム
標準的な3層アプリケーションの開発環境

所有者 ITインフラ統括部

Distributor

連絡先 E メール support@example.com

サポートリンク <https://dev-support.example.com>

サポートの説明 本製品の不明点に関してはサポートリンク先のFAQをご覧ください

製品の起動

▼ バージョン (1)

名前フィルター

バージョン ▼	作成時刻 ▼	説明 ▼
v1.0	Jul 12th 2018 10:18:39 UTC...	初期リリース

▼ 起動オプション (1)

起動オプション - 1

製品の起動リンクをクリックしてこの製品を起動します

製品の作成時に入力した情報が表示されます

ユーザーによるポータルへのアクセス:製品の起動

手順 1: 製品バージョン

手順 2: パラメータ
手順 3: TagOptions
手順 4: 通知
手順 5: 確認

製品バージョン

プロビジョニングされた製品名を指定した後、作成するプロビジョニングされた製品に該当するバージョンを選択します。

プロビジョニングされた製品

プロビジョニングされた製品は、単一のユニットとしてプロビジョニングされます。

名前*

製品バージョン

バージョン*

名前	バージョン	提供元
<input type="text" value="名前でフィルター"/>	<input type="text" value="バージョン"/>	<input type="text" value="提供元"/>
<input checked="" type="radio"/>	v1.0	IT-インフラ統括部

*必須

起動 - 標準Webシステム

手順 1: 製品バージョン

手順 2: パラメータ

手順 3: TagOptions

手順 4: 通知

手順 5: 確認

パラメータ

パラメータの値を指定するか、デフォルト値を使用します。

Instance configuration

Server size:
EC2 instance type.

Security configuration

Key pair:
Name of an existing EC2 key pair for SSH access to the EC2 instance.

CIDR range:
The IP address range that can SSH to the EC2 instance.

テンプレート制約で制限をかけたインスタンスタイプのみが選択肢として表示されます

[キャンセル](#) [戻る](#) [次へ](#)

ユーザーによるポータルへのアクセス:製品の起動

起動 - 標準Webシステム

手順 1: 製品バージョン

手順 2: パラメータ

手順 3: TagOptions

手順 4: 通知

手順 5: 確認

TagOption

次の TagOption は、管理者によって製品またはポートフォリオに追加されています。一部の TagOption には複数の値があり、最も該当する値の選択を求められる場合があります。[詳細はこちら](#)。

キー (最大 127 文字)	値 (最大 255 文字)
新しいキー	新しい値

起動されるAWSリソース
(EC2など)に、TagOptionで
指定したタグが付与される

キャンセル 戻る 次へ

ユーザーによるポータルへのアクセス: プロビジョニングされた製品のリスト

☰ プロビジョニングされた製品のリスト				古い外観に戻す
検索	Filter by	並べ替え		
例:名前	ユーザー ▾	ID ▾	🔄	☰ ☐
プロビジョニングされた製品名	作成時刻	状況	状況メッセージ	
⋮ Dev_WebAP_SystemA	2018-07-12 10:50:37 UTC+0900	🕒 UNDER_CHANGE		

ユーザーによるポータルへのアクセス: プロビジョニングされた製品の詳細

Dev_WebAP_SystemA

アクション ▾



状態 利用可能
製品 標準Webシステム
バージョン v1.0
提供元 ITインフラ統括部

▼ イベント (1)

🔄

状況	タイプ	イベントメッセージ
成功	PROVISION_PRODUCT	

Record ID:rec-vqezfzcyjzqwgs
プロビジョニングされた製品の ID:pp-ntz24byqig6ee

▼ 出力:

キー	値	説明
CloudformationStackARN	[REDACTED]	The ARN of the launched Cloudformation Stack
PublicIPAddress	[REDACTED]	Public IP address of the new EC2 instance
PublicDNSName	[REDACTED]	Public DNS name of the new EC2 instance

テンプレートで定義された出力が表示される

© 2018, Amazon Web Services, Inc. or its Affiliates. All rights reserved.



Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

TagOptionライブラリ

- ポートフォリオや製品に対してTagOptionを指定し、製品起動時に設定したTagOptionが引き継がれる仕組み
- リソースのタグを統一的に付与するのに役立つ

開発環境用ポートフォリオ

TagOption

CostCenter = 70

CostCenter = 71

CostCenter = 72

Env = Dev

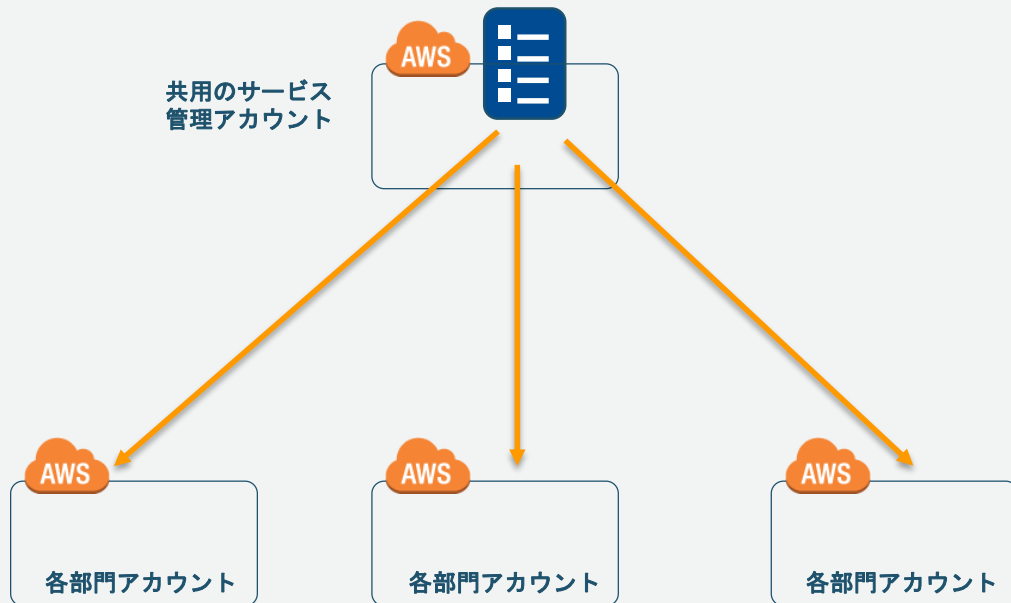
ポートフォリオに含まれる製品を起動する際には設定したTagOptionが引き継がれる。ひとつのキーに複数の値が設定されている場合は、起動時に値を選択する

製品起動時

キー (最大 127 文字)	値 (最大 255 文字)	
	値を選択する	
CostCenter	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">70 71 72</div>	
Env	Dev	

アカウント間でのポートフォリオの共有

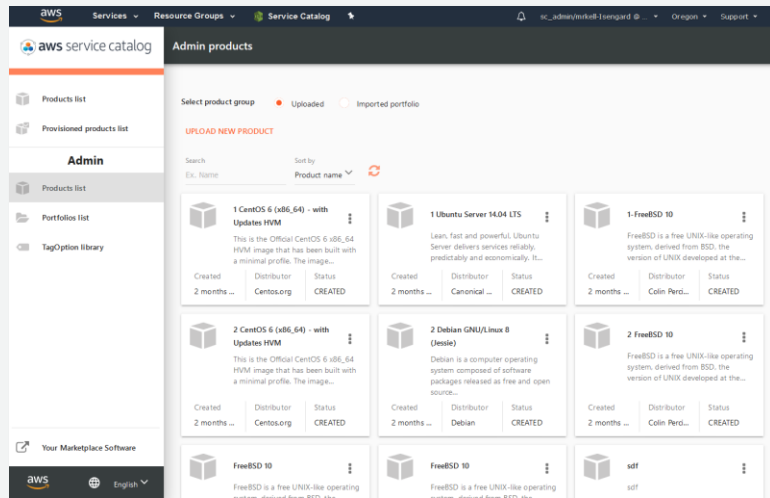
- アカウント間でポートフォリオの共有が可能
- テンプレート制約、起動制約も継承される
- 共有されたポートフォリオからローカルのポートフォリオに製品をコピーすることで、起動制約は上書き可能



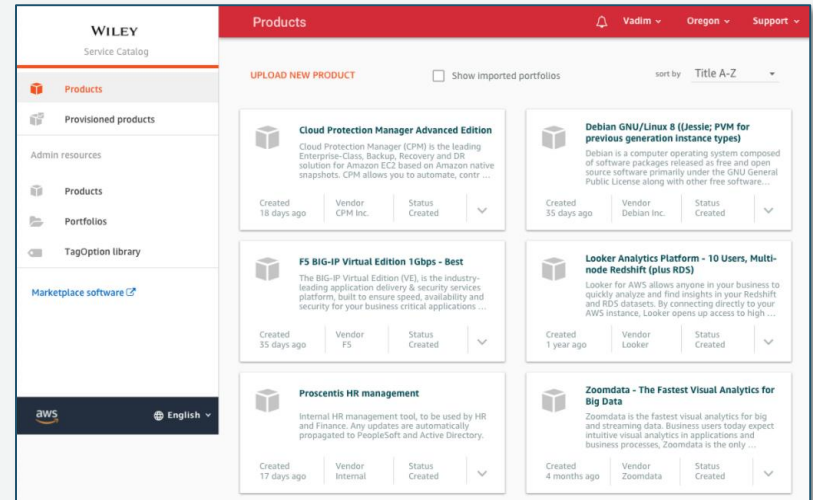
AWS Service Catalogでコンソールの ルックアンドフィールのカスタマイズ

コンソールのロゴや配色などがカスタマイズ可能となった
ポータルなどの社内システムからのアクセス時にシームレスなユーザー体
験を提供可能

デフォルトのコンソール画面



カスタマイズされたコンソール画面



<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2018/03/aws-service-catalog-launches-brand-your-console-to-deliver-a-customizable-user-experience/>



連携機能: Marketplace

AWS Marketplace

aws marketplace

AMI & SaaS

View Categories Your Saved List Sell In AWS Marketplace

Mautic Certified by Bitnami

Copy to Service Catalog

to Service Catalog console where you can manage your company's cloud resources.

Service Catalog Copy

You can copy one or more versions of this software to Service Catalog in a region where the service is supported. You can then manage the software in Service Catalog by assigning users and roles, adding tags and launching the software. [Learn More](#)

Service Catalog region

Select a region into which to copy software. Repeat this process for each region you choose.

Asia Pacific (Tokyo)

Service Catalog versions

Choose the version to copy to ap-northeast-1. Each time you completed a copy operation, a new entry will be created in Service Catalog, even if an identical entry already exists.

2.13.1-0-r30 on Ubuntu 16.04, released 06/04/2018 (AMI)

Copy To Service Catalog

Service Catalogの製品管理画面

aws サービス リソースグループ

snonin @ shinryo 東京 サポート

新しい製品のアップロード

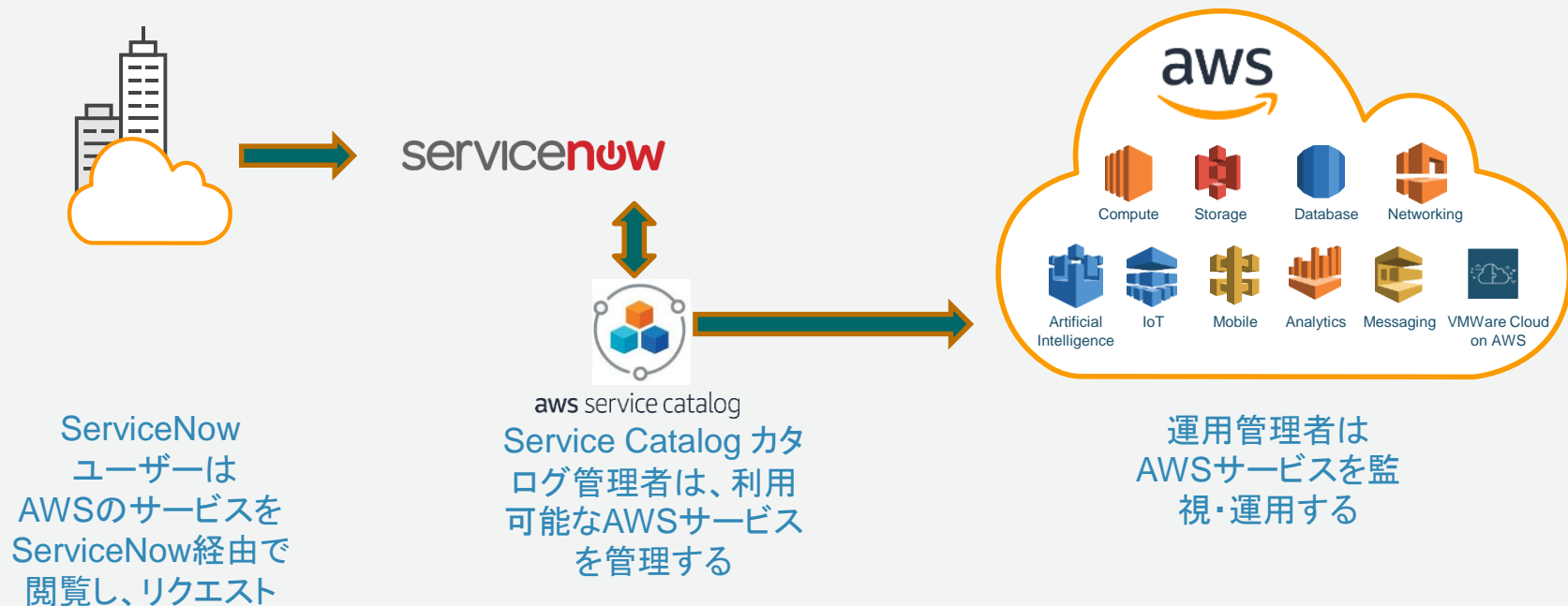
検索

製品名

製品名	作成時刻	ベンダー	状況	説明
Mautic Certified by Bitnami	2018-07-12 11:57:37 UTC+0900	Bitnami	CREATED	Mautic is an open source marketing automation system for campaign and lead management, social media and email marketing, advanced reporting, and integration with third-party services via REST API. Why use Bitnami Certified Apps? Bitnami certifies that our images are secure, up-to-date, and packaged using industry best practices. With Bitnami you can trust what's in the app you're launching. We monitor all components and libraries for vulnerabilities, outdated components, and application updates. When one is reported, we update and release every affected listing within a couple days at most.
標準Webシ...			ATED	標準的な3層アプリケーションの開発環境

MarketplaceからService Catalogの製品として、ワンクリックで取り込み可能
エンドユーザーは、管理者により許可されたMarketplaceの製品をService Catalogから起動できる

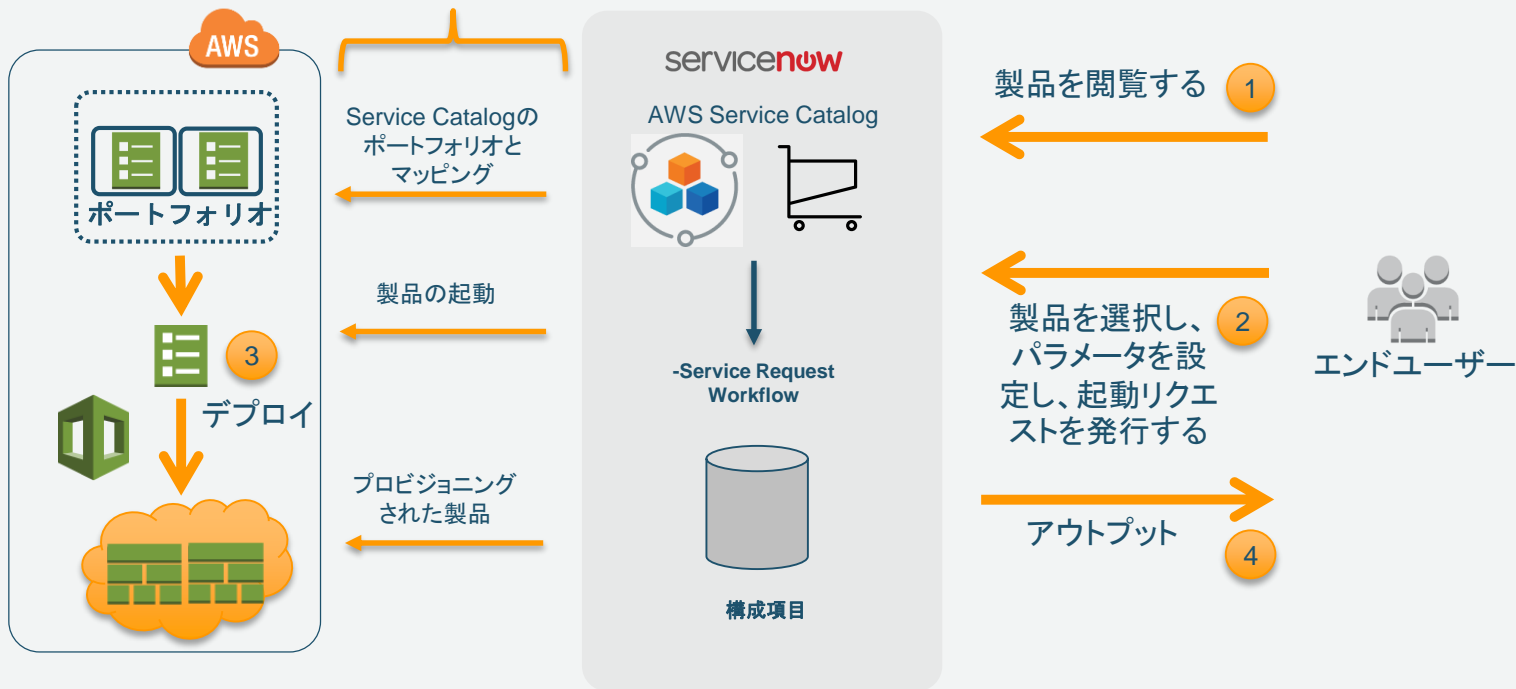
連携機能: ServiceNow



連携機能: ServiceNow

エンドユーザーの処理の流れ

AWS Service Catalog API



Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - **料金**
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

料金

- ポートフォリオ毎に1ヶ月あたり 5 USD
- 1人以上のユーザーが割り当てられたポートフォリオが課金対象
- 割り当てられた製品やユーザーの数、製品起動数によって料金は変動しない

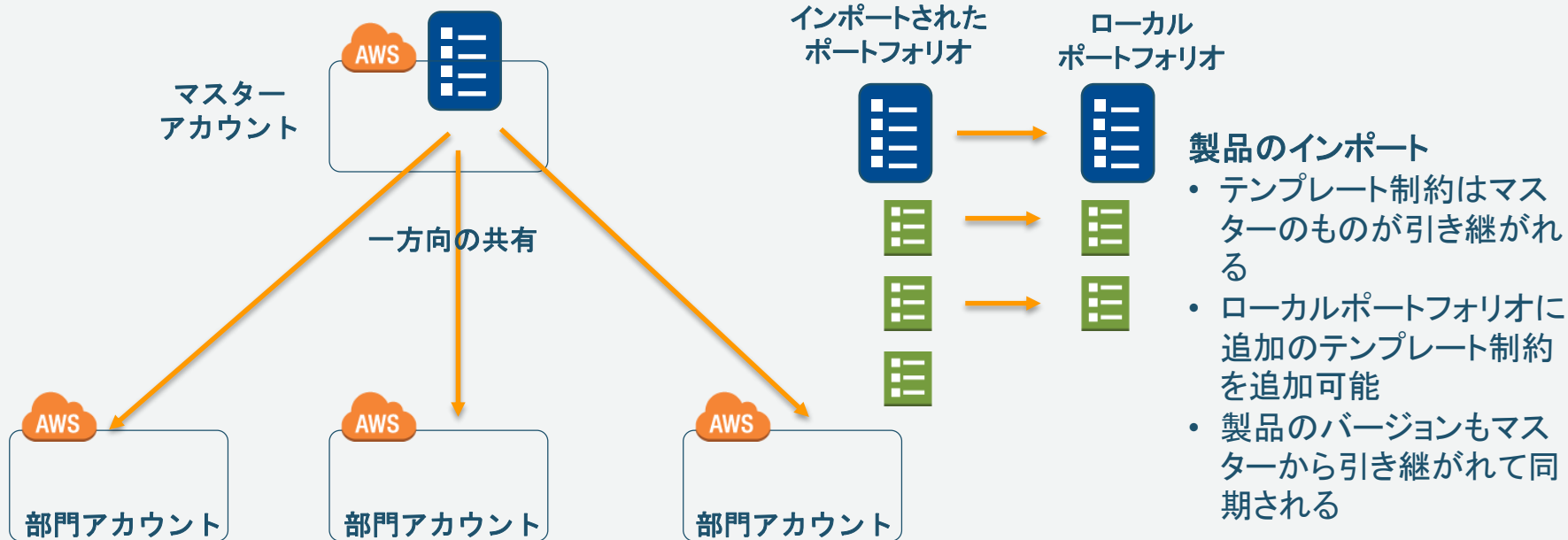
<https://aws.amazon.com/jp/servicecatalog/pricing/>

Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

Hub-Spoke パターン

マスターアカウントで製品を一元的に管理。各アカウントは、共有されたポートフォリオから、ローカルポートフォリオに製品をコピーして利用



Consumer – Creator – Managerパターン

役割ごとに権限を分割する

セルフサービスを促進するためにCreatorが、Service Catalogの管理などを行う



Consumers



Creators



Managers

典型的には開発者

- Service Catalogのエンドユーザー権限
- ログや監視の参照権限

典型的にはリリース管理者/自動化担当者

- Service Catalogの管理者権限
- ログや監視のアラーム・ダッシュボードの作成権限

典型的にはAWS管理者

- AWSの管理者権限

Agile Governance パターン

製品に対するテンプレート制約を動的に追加するパターン



Baseline Setup –VPC、サブネット、セキュリティグループ、踏み台などを作成



Linux Server

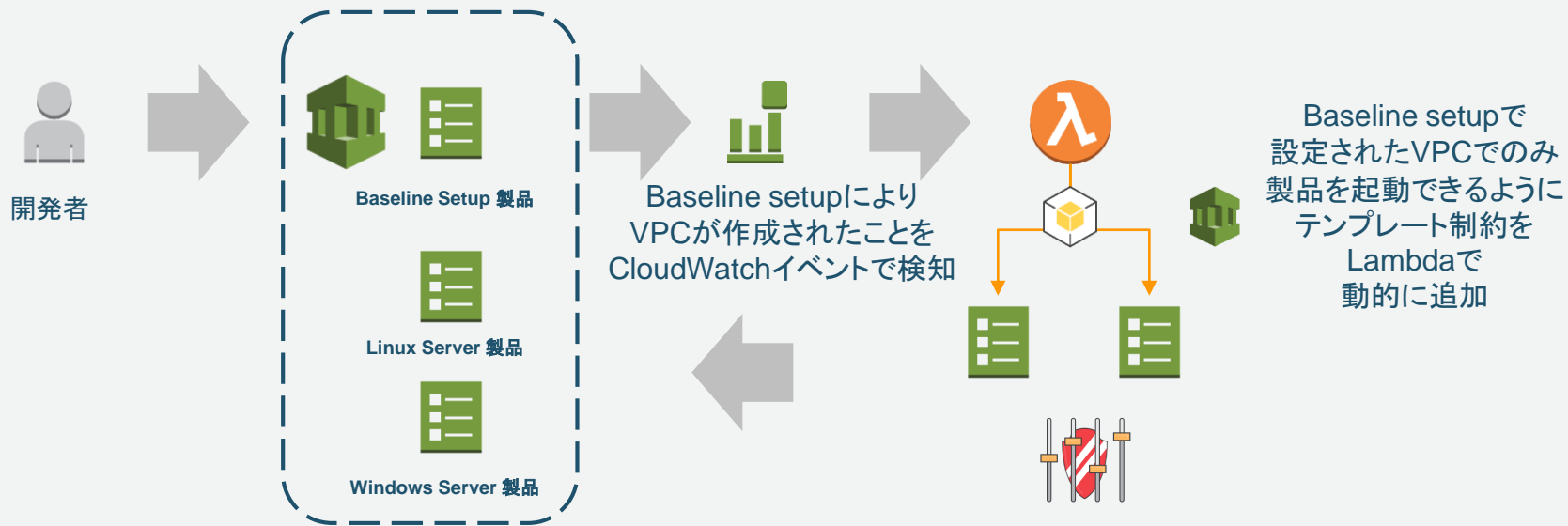


Windows Server



サーバーの起動をBaselineで作成された
VPCやサブネットに制限したい

Agile Governance パターン

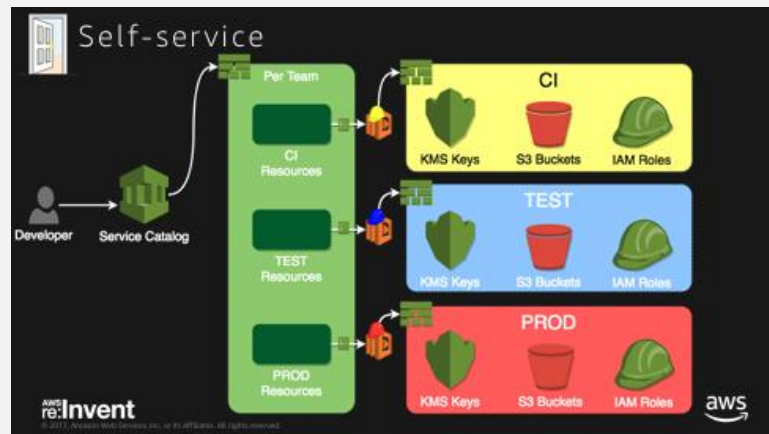
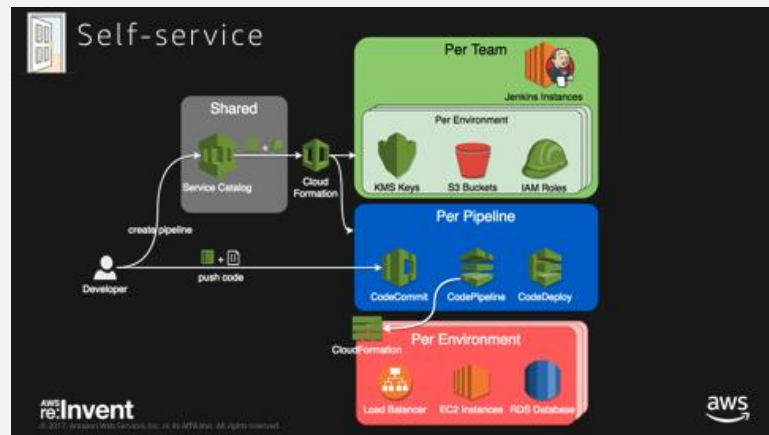


Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- まとめ

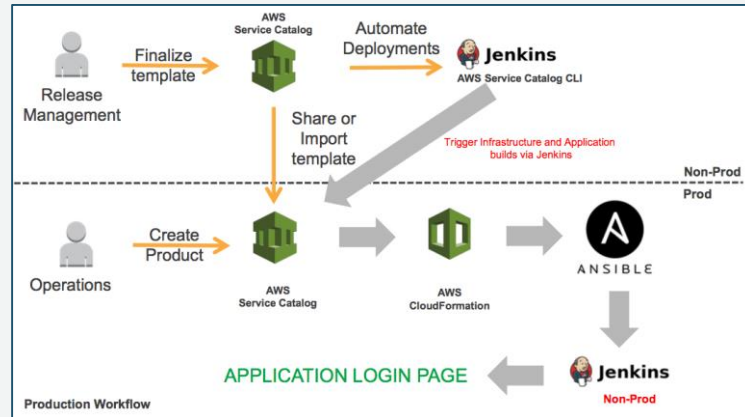
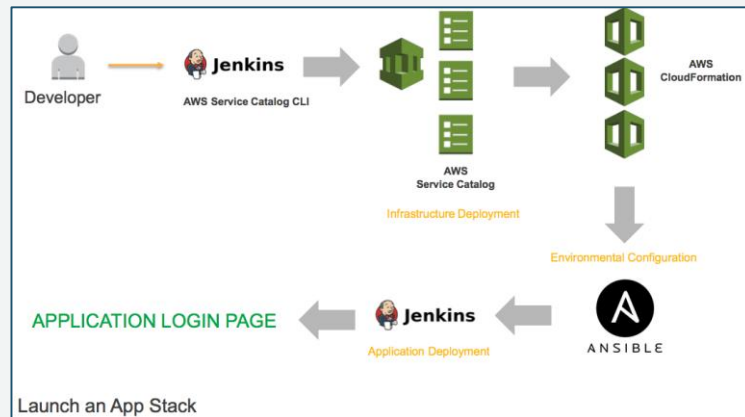
3M

- re:Invent 2017 で講演
 - Using AWS to Achieve Both Autonomy and Governance at 3M (DEV332)
 - <https://www.youtube.com/watch?v=tSZZC1cf4h8>
 - <https://www.slideshare.net/AmazonWebServices/dev332using-aws-to-achieve-both-autonomy-and-governance-at-3m>
- 開発者がセルフサービスで継続的デリバリの環境を構築するために利用



John Wiley & Sons

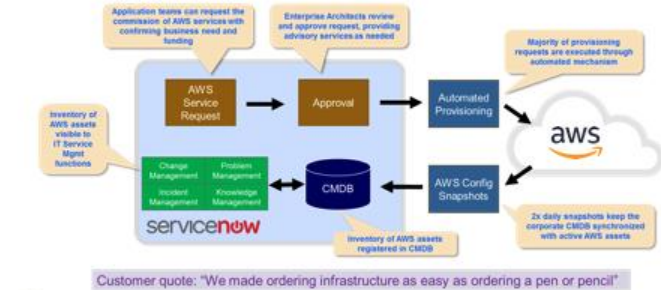
- re:Invent 2016 で講演
 - Enabling DevOps for an Enterprise with AWS Service Catalog (DEV321)
 - <https://www.youtube.com/watch?v=J6XeDtCuERM>
 - <https://www.slideshare.net/AmazonWebServices/aws-reinvent-2016-enabling-devops-for-an-enterprise-with-aws-service-catalog-the-john-wiley-sons-journey-with-aws-professional-services-dev321>
- AWS Service CatalogとAnsible、Jenkinsを組み合わせ、開発環境のプロビジョニングをセルフサービス化し、本番環境のプロビジョニングのフローも自動化



Fannie Mae

- re:Invent 2017 で講演
 - Building end-to-end IT Lifecycle Mgmt & Workflows with AWS Service Catalog (MSC201)
 - https://www.youtube.com/watch?v=rbGGGoUnp_Q
 - <https://www.slideshare.net/AmazonWebServices/building-endtoend-it-lifecycle-mgmt-workflows-with-aws-service-catalog-msc201-reinvent-2017>
- ServiceNowとAWS Service Catalogを組み合わせ、オンプレミスとAWS双方を統合してITサービスマネジメントを実現

MyServices ServiceNow Based Solution

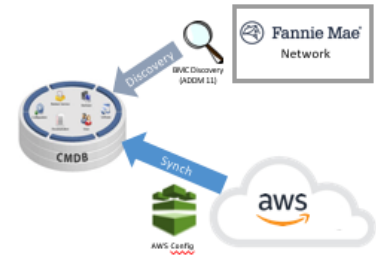


Fannie Mae AWS re:Invent | Nov 2017

© 2017 Fannie Mae. Trademarks of Fannie Mae. | 38

AWS to CMDB Synchronization (1 of 2)

- BMC Discovery (ADDM 11) is used to discover IT assets on the Fannie Mae network
- ADDM 11 cannot discover AWS IT assets as they are outside the corporate network
- Custom solution built using native AWS Config services, which synchronizes AWS resources with the CMDB



Fannie Mae AWS re:Invent | Nov 2017

© 2017 Fannie Mae. Trademarks of Fannie Mae. | 23

Agenda

- はじめに
- AWS Service Catalog の機能概要
 - 用語と概念
 - 設定方法
 - 各種機能
 - 料金
- AWS Service Catalog を利用したアーキテクチャパターン
- AWS Service Catalog の活用事例
- **まとめ**

まとめ

- AWS Service Catalogを利用することで、ガバナンスやセキュリティを担保しながら、開発者などがセルフサービスでAWS環境を迅速にプロビジョニングできるようになります
- エンタープライズ組織で、統制をとりながらDevOpsを推進するためのツールとして活用されています

参考資料

- AWS Service Catalog 製品ページ
<https://aws.amazon.com/jp/servicecatalog/>
- ドキュメント
<https://aws.amazon.com/jp/documentation/servicecatalog/>
- Forum
<https://forums.aws.amazon.com/forum.jspa?forumID=198>
- Blog
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/mt/category/management-tools/aws-service-catalog/>

オンラインセミナー資料の配置場所

AWS クラウドサービス活用資料集

- <https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/>

			
サービス別資料	ソリューション別資料	業種別資料	その他の資料
無料オンラインセミナー「Black Belt Online Seminar」のサービスカット資料他、AWSのTechメンバーによる各サービスの解説資料がご覧いただけます。	無料オンラインセミナー「Black Belt Online Seminar」のソリューションカット資料他、特定のソリューションについてのAWS活用方法がご覧いただけます。	無料オンラインセミナー「Black Belt Online Seminar」のインダストリーカット資料他、特定の業界のユースケースがご覧いただけます。	イベントに関する資料やアップデート情報などがご覧いただけます。

Amazon Web Services ブログ

- 最新の情報、セミナー中のQ&A等が掲載されています。
- <https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/>

公式Twitter/Facebook AWSの最新情報をお届けします



@awscloud_jp



検索

もしくは

<http://on.fb.me/1vR8yWm>

最新技術情報、イベント情報、お役立ち情報、
お得なキャンペーン情報などを日々更新しています！

AWSの導入、お問い合わせのご相談

AWSクラウド導入に関するご質問、お見積、資料請求をご希望のお客様は以下のリンクよりお気軽にご相談下さい。

<https://aws.amazon.com/jp/contact-us/aws-sales/>

<p>お問い合わせ</p> <hr/> <p>日本担当チームへのお問い合わせ ></p> <hr/> <p>関連リンク</p> <p>フォーラム</p> <hr/>	<h2>日本担当チームへのお問い合わせ</h2> <p>AWS クラウド導入に関するご質問、お見積り、資料請求をご希望のお客様は、以下のフォームよりお気軽にご相談ください。平日営業時間内に日本オフィス担当者よりご連絡させていただきます。</p> <p>※ご請求金額またはアカウントに関する質問はこちらからお問い合わせください。</p> <p>※Amazon.com または Kindle のサポートにお問い合わせはこちらからお問い合わせください。</p> <p>アスタリスク (*) は必須情報となります。</p> <p>姓*</p> <input type="text"/>
	<p>名*</p> <input type="text"/>

※「AWS お問い合わせ」で検索して下さい。

AWS Well Architected 個別技術相談会お知らせ

- Well Architectedフレームワークに基づく数十個の質問項目を元に、お客様がAWS上で構築するシステムに潜むリスクやその回避方法をお伝えする個別相談会です。

<https://pages.awscloud.com/well-architected-consulting-jp.html>

- 参加無料
- 毎週火曜・木曜開催

【毎週火、木曜開催】AWS Well-Architected 個別技術相談会

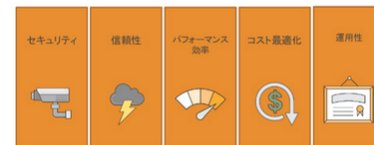
AWS 上で構築するシステムのリスクの把握・回避方法をご希望のお客様

この度 AWS をご活用頂いているお客様を対象に「AWS Well-Architected 個別技術相談会」を開催致します。

Well-Architected 個別技術相談会では、リスクの把握・回避を目的として、セキュリティ・信頼性・パフォーマンス・コスト・運用の5つの観点で、お客様の AWS 活用状況や構成についてお伺いします。AWS のベストプラクティスに基づき作成された Well-Architected フレームワークを元に、今までお客様がお気づきでなかったリスクやAWS活用の改善点を見つけることができます。例えば、自動車においては納車前点検、車検を定期的に行うのと同様に、本相談会はおお客様の AWS 上のシステムをよりよく活用頂くことを目的としております。

» [説明資料\(PDF\) \[AWS Well-Architected Framework -クラウド設計・運用ベストプラクティスの活用-\]](#)

Well-Architected 個別技術相談会にご参加頂くには、本ページにてお申込み後、弊社担当者からお送りするヒアリングシートにご記入・担当者にご送付頂く必要があります。その内容を元に、当日の相談会では AWS のソリューションアーキテクトと共に技術的なディスカッションをさせていただきます。また、遠方のお客様、アマゾン東京オフィスへのご来社が時間等の関係で難しいお客様は、Web のプレゼンテーションツールや、お電話を活用したリポートでのご相談も承ります。



下記のフォームよりお申込みください。

* 姓:

* 名: